



かがよう海の星

私は「和」の表現をする上で、自然に感謝し自然の循環を重んじる姿勢をとることが大切なのではないかと考えました。

都心には高層ビルが建ち並ぶ。人間ファーストの不自由ない効率的な生活。AIなどの人工知能の発展。ロボットの登場による作業の簡略化。

様々な分野で進化するこの世界で、忘れてはならない存在が「自然」です。自然は人間の生活にとって必要不可欠の存在であるからです。

日本人にとって「和」は、人によって様々な解釈があるとは思いますが、普段の生活で思い出すことが少なくなっている意識の一つだと思います。

それと同時に「和」は、日本人の心の根底にあり続けるものであり、忘れてはならないものであると感じます。

このような考え方から、「和」と「自然」には、見えない共通点があるのではないかと考えるようになりました。

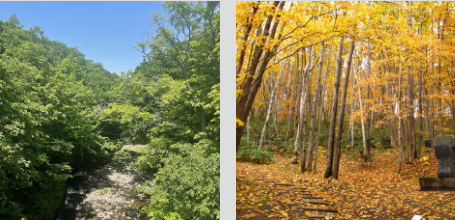
「かがよう海の星」と題したこの作品は、海鮮などの魚介類を提供する飲食店の廃棄物（鮑、牡蠣、ホッキ、ホタテなどの貝殻）を使用して制作しました。それに加え、100mm×100mmの164枚の鉄板を加工し設置しました。

作品の主な材料の一つである鮑の貝殻は、国の伝統的工芸品に指定されている高岡漆器などにも螺鈿という技法を用いて利用されています。螺鈿では、真珠層と呼ばれる貝殻の煌めいている部分を使用しますが、私の作品では、元から見えている真珠層の部分だけでなく、反対側の部分（貝殻の外側）も削り、どの角度から見ても真珠層の煌めきが伝わるように加工しました。

下方には、鉄板を加工した作品を配置しています。鉄は、大昔から人類にとって貴重な資源でした。古代日本人にとっても鉄は、社会変革を促す物質だったのではないのでしょうか。

美しい自然（貝殻）と鉄を同じ空間に配置することにより、人類の文明の発展と自然環境のつながりを表現しました。

- ・敷地：札幌市南区芸術の森～滝野
美術館やスキー場があるため多くの外国人観光客が訪れている。
自然豊かな地域。
- ・面積：40～50 m²程度。
- ・表現方法：アート。
インスタレーションを通し、人類と自然のつながりを表現。



- 敷地の写真 -

